

ぽむ・ぽむ通信

No. 22

ユニセフ リーダー研修・交流会 開催！



東日本（東京） 8月18日（月）～19日（火）

西日本（京都） 8月21日（木）～22日（金）

日本生協連と日本ユニセフ協会の共催によるユニセフリーダー研修・交流会が、東西2カ所で開かれました。これは、ユニセフ活動に取り組んでいる組合員・役職員を対象に、ユニセフや世界の子どもの状況への理解の促進をはかり、各生協でのユニセフ活動をさらに発展させていくことを目的として、昨年からはじめられた企画です。

今年は、東北エリアから九州エリアまで、東西合わせて29生協・県支部から76人の組合員・役職員などが参加しました。みなさんとても熱心に参加し、熱気あふれる2日間の研修・交流会となりました。

リーダー研修・交流会のプログラム

初日	2日目 ベーシックコース	2日目 アドバンスコース
13:00 受付	9:00 プログラム3 ・ユニセフ理解ワークショップ	9:00 プログラム3 ・ユニセフ協会・日生協からの報告
13:30 プログラム1 ・ユニセフ現地報告 ・質疑応答	10:00 プログラム4 ・ユニセフ協会・日生協からの報告	9:30 プログラム4 ・学習ワークショップの企画づくり
15:30 休憩	10:30 休憩	10:30 休憩
15:40 プログラム2 ・アイスブレイク ・グループ別活動交流 ・全体活動交流	10:40 プログラム5 ・活動事例紹介 ・今後のユニセフ活動に向けて意見交換	10:40 プログラム5 ・今後のユニセフ活動アクションプランづくり
17:40 休憩・移動	12:30 終了・解散	12:30 終了・解散
18:00 夕食交流会	ユニセフハウス見学 希望者・東京会場のみ	ユニセフハウス見学 希望者・東京会場のみ
20:00 終了		

第2回目となる今回は、2日目のプログラムをベーシックコースとアドバンスコースに分けて実施しました。

来年も東西2カ所で開催する予定です。ぜひ多くの方の参加をお待ちします。

ユニセフ現地報告 東ティモールの現場から

ヤシの木陰で昼寝をしたり、水泳をしたりが趣味という浦元さんは、ユニセフ勤務26年。ユニセフの役割や活動について精力的にお話してくださいました。

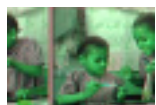
まずは発展途上国と先進国（つまり私たち）とのつながりがどんどん大きくなっているから、関係ないと避けて通るわけにはいなくなっている、というところからユニセフの役割のお話。

ユニセフの活動範囲は狭いと思われているが、将来のための子どもへの投資は必ず返ってくる。時間はかかるけれど、確実性がある。つまり開発の根幹を担っているというのです。

前赴任先のインドネシアのお話では、「県知事の評価表」なるものが登場。情報公開と行政の説明責任という考えてみればあたりまえのことだがなかなか難しい...と同時にユニセフってこういうこともするの、という驚きも。

次は、現在の赴任地東ティモールでの緊急援助から国づくりの支援について。ユニセフの職員は50名ほどで、主に保健医療・教育・児童法などの立法も含めた子ども達の保護を中心に据えて支援活動をおこなっているそうです。行政・医療・教育など色々な分野で

インドネシア



県知事の評価表 (貧困対策と人間開発) —インドネシアの例—

- ・妊産婦の破傷風予防接種率
- ・危機管理された出産
- ・はしかの予防接種率
- ・家族計画普及率
- ・2歳以下の栄養失調の子供の割合
- ・安全な水
- ・衛生的なトイレの普及率
- ・貧困層の割合
- ・小学校進学率
- ・中学に進む女の子の割合
- ・女の子の16歳以下の結婚

発展途上の国と先進国

	発展途上国	先進国
総人口	54億人	5.5億人
国の数	147	29
一人当たりの所得	1200ドル	26000ドル
総所得	6.2兆ドル	24.2兆ドル
乳児死亡率	58	5
平均寿命	54	77
民主国家	27%	99%

Lawrence Summers at KSG Forum, 7 April 2003

子供は我々・世界・人類の希望・未来です！

- どこまでも夢を追いかけるユニセフ
 - 何のための貧困の撲滅・平和・民主的な政府・持続可能な開発！
 - GNPじゃない“人”のため...どの人のため？
 - 世の中は人がつくるもの...まず人づくりから
 - 短期・中期・長期的視野からの人づくり...まずは子供から

県知事の評価表(インドネシアの例)

情報公開と行政の説明義務

- ・子どもの生存が保証され、健全に発育し教育されることは人権の根本
- ・労働力の改善は子どもから！人が重要！
- ・年に一度11項目のインディケーターが数値化され、インドネシア全国の約400県すべてが順位付けされる。反対する知事も反論の余地がない！
- ・県知事は年ごとに11項目のインディケーター改善を公約する。
- ・ユニセフはインディケーターの見方・改善の方法を議会に対しても説く。
- ・年に一度議会でも報告する。
- ・スハルト時代には不可能だった‘知事’評価表



人が支配・指導していた状態から、彼らが本国に帰ってしまい、国を造っていく人達を育てる人づくりから始めなければいけない状態に。2002年独立後、やっと開発が始まったというところ。最低限の社会経済生活・基本的なニーズの安定には10～20年かかるが、それをユニセフが進めている。緊急援助も大切だが、先を見て援助を継続していく事が大切とのことでした。

長かった植民地時代からやっと抜け出して歩き出した国。浦元さんのお話を聞きながら、難しいことはともかく、東ティモールの生活、人々のことをもっと知りたくなってきていました。こんなことがきっかけで世界でおきていることに目を向けてみるのもいいかな...ぜひ来年はあなたも交流会に参加してみてください。(松本)

<ユニセフリーダー研修会 ベーシックコース>

まず 15分のビデオ「ユニセフと地球のともだち」をみました。とてもわかりやすいビデオとの印象を受けました。おすすめします。

ワークショップ「**貧困のサイクル**」貧困の原因になっていることは何か。どうやったら貧困を断ち切ることができるかを、カードを使いながら考えました。「早速組合員交流会を開きやってみようと思います。」との感想がきかれました。



いくつかの生協より ユニセフ協力活動報告。前日発表された分の事例も含め箇条書きします。

- 総代会でラオスの絵をはり、ユニセフの活動をアピールしました
- カレンダー募金に取り組みました。こどもの目線を大切にしています。ふかし芋、甘酒、すいとん 楽しめる企画を考えています
- 年に10回発行の広報誌で伝えること、結果を伝えることに力を注いでいます
- こども達にもわかるようなおしらせが必要とおもい、そのパンフレット作りをしています。100円でできることなどを伝えます。
- スーパーの袋が有料です、その10%が寄付になります。
- リーダー養成講座を開催しています。小、中学校にユニセフのお話に行きます。
- 世界の民族衣装を着てみよう。「国際理解につながるのでは」と企画しています。

<ユニセフリーダー研修会 アドバンスコース>

今年からの試みとして2日目は2つのコースに分かれ、アドバンスコースではより実践的な内容の研修になりました。

まず学習会の事例として、コープかながわ「ユニセフの会」から子どもを対象にした学習会の報告があり、その後3つのグループに分かれて企画づくりのワークショップに移りました。テーマは「親子向けの学習会」と「年間計画」を考えるというものです。

このコースの参加者は活動経験が長い組合員さんが多かったので、すぐにどのテーブルにもぎやかな(?)意見交換が始まりました。年間計画づくりでは、各々が活動事例を出し合うと「いいね!それ!今度うちもやってみよう」などと言ながら、「何を?いつ?どこでやるの?」という事が、どのグループも盛り沢山に出来上がっていきました。どこからか思わず「これが全部やれたらいいのにね...」のコメントも聞こえてきました。学習会の企画づくりは一例を紹介します。

どうです?楽しそうでしょう?この企画の続きはぜひともそれぞれの生協に帰って練り上げ、実現させてほしいと思いました。

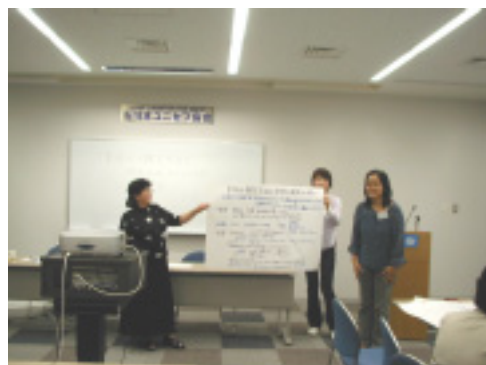
駆け足の2日目でしたが、グループの皆さんとも一緒に企画を立てることでより深く交流できた気がします。とても楽しく有意義な3時間半でした。(谷杉)

などなど 多くの事例を聞くことができました。お互いの活動を具体的に聞けるのは何よりの交流のようで、「多くの人が参加できそうなことと実行してみたいと思いました。」

「参考になりました。資金がなくてもユニセフの理念を広める活動を工夫していきたい」「いただいた資料が大変やくにたちそうです」との声。最近改訂された「**ユニセフ活動の手引き**」にもたくさんの事例が載っていますので、ぜひ 御活用ください。ユニセフを応援する気持ちさえあれば、形や規模はどうであれ、みんなユニセフ協力活動。さまざまなヒントが得られる、リーダー研修です。気軽に、活動を始めたばかりの人にも、ユニセフを知りたい人にも参加していただけたらと思います。来年も開催予定です。(山本)

「夏休み親子企画-世界の冒険の旅へ-」

場所-野外、公園、区役所ホール(調理スペースがある)
(人が集まりやすい所、同じ参加者ばかりじゃない)
時間- 120分(10~12)
人数- 親子ペア 20組 40人位
テーマ 親子でユニセフを知ろう
~子どもの立場、日本の私達、開発途上国のお友達~
内容- クイズラリー<30分>
(コーナーを作る、国旗・民族衣装・おもちゃ・三択クイズ)
ゴールで答え合わせをしながら学習<45分>
(ビデオ・写真・パネル・紙芝居・水瓶・地雷のレプリカ)
食文化からの交流<45分>
(生春巻、カレー、ナン、餃子、タピオカ、タコス等)



～世界に届けよう、日本の子どもの声～

「ユニセフ子どもセミナー 2003」開催

子どもたちにとっては夏休み真っ盛りの8月6日、“世界に届けよう、日本の子どもの声”をスローガンにユニセフハウスで「ユニセフ子どもセミナー2003」が開催されました。全国各地から集まった子どもは小学生から高校生まで約100名。2Fの大会議室は、子どもたちの熱気であふれんばかりでした。

このセミナーは、2002年5月の「国連子ども特別総会」で採択された「子どもにふさわしい世界」を実現するため、日本の国内行動計画に子どもの声を取り入れてもらおうと企画されたものです。

このセミナーに参加しようと思ったきっかけは??ユニセフや国連の事を知りたい、学校で勉強していた、何か行動したいと思った、将来のために...、と様々です。

そもそも「国連子ども特別総会」って何なのか、そこで何が約束されたのかを学習した後は、グループに分かれて「最近自分の身の回りで、気になること、問題だと思ふこと」について話すことがテーマでした。

グループはあらかじめ近い年齢で構成されていて、ユニセフからリーダーが一人ずつ加わった中で、アイスブレイキングを終えていましたので、話し合いはなごやかな雰囲気ですスタートしました。

「学校でのいじめ」や「不登校」、「少年犯罪」、「子どもの意見を聞かない大人」1「大人のマナーの悪さ」、「公園が汚い」、「ゴミが多い」...etc、様々な問題が出されました。学校などのごく身近なことや、マスコミからの情報を問題だと感じているのが、年齢が上がるにつれて身近な社会や環境、大人に対して感じることなどにも問題意識が広がっているように感じました。



午後のグループワークは、これらの出された問題について「自分たちに何ができるかを考えよう」がテーマです。自分は何ができるのか、誰に何をしてほしいのかをグループで話し合い発表をしました。「子どもの犯罪」をテーマにしたグループでは、役所の人・学校の先生・警察の人に協力してもらい、呼びかけてもらったり見本になる様な行動をとってもらう。自分たちの意見を言っていく。それを聞いてもらい、犯罪がなくなるようにする。新聞・インター

ネット・パンフレットなどを作りみんなに呼びかける...など。模造紙には一人々の意見を書いたポストイットが沢山貼られていました。

この日発表された内容は日本ユニセフ協会が子どもたちの声を取りまとめて、後日、国内行動計画作成に関わる国会議員に送る予定です。

1日限りのセミナーではありましたが、それぞれの胸に芽生えた参加者としての意識は、「子どもにふさわしい世界」を実現するための大きな一歩になることでしょう。(谷杉)



イラク緊急募金へのご協力ありがとうございました

～ 全国の募金約 7 0 0 0 万円に ～

困難な状況に置かれているイラクの子どもたちを支援するために、全国の生協はユニセフのよびかけるイラク緊急募金に取り組みました。この募金には、地域生協を始めとして大学・医療・職域・学校など幅広い生協が取り組み、全国の募金額は約 7 0 0 0 万円に上る見込みです。これは一昨年のアフガニスタンへの緊急支援を訴えた募金額を超えて、近年では最も多い募金額となっています。

全国の生協では、イラク戦争開始直後から募金活動がおこなわれました。今回の募金では、共同購入・個配・店舗などでの募金が幅広くおこなわれた他、店頭や街頭での募金活動なども幅広くおこなわれました。



<イラクの現状>

戦闘行為自体は短期間で終了しましたが、その後一向に治安が回復しない中で、市民生活を支える社会システム自体が崩壊したままの状態が続いています。イラクでは長年の経済制裁により、ただでさえ子どもたちの状況が厳しいところへ、今回の事態が重なり、子ども達への影響は甚大です。治安悪化の中で、安全な飲み水、保健ケアへのアクセスはさらに困難になり、学校が休止し、不発弾や地雷の被害にあう危険性、虐待、搾取の対象となる可能性が増えています。

<ユニセフの支援活動>

こうした中で、ユニセフは、安全な飲み水の確保、予防接種で防げる病気や水を原因とする病気の予防、栄養不良の改善を重点的に行うとともに、学校の再開を支援し、不発弾等の危険からの回避、性的虐待を含むあらゆる搾取からの保護に取り組んでいます。

【水と衛生】 上下水道施設の修理、発電機、塩素ガス、浄水剤の提供、南部に毎日 350 万リットル、バクダッドに 100 万リットルの給水活動を行いました。

ゴミの収集は 4 つの都市で行われており、250 万人が恩恵を受けています。

【保健】 5 歳未満児 420 万人対象の定期予防接種を 6 月に再開しました。

50 の基礎保健センターを修復し、34 の病院と保健ケア・センターに緊急保健キットと基礎医薬品を提供し、遠隔地 21 箇所の 50 万人がこの恩恵を受けています

【栄養】 高たんぱくビスケット 3,641 トンと栄養強化ミルク 215 トンを提供し、妊産婦や母乳育児中の女性、栄養不良の子どもなど約 150 万人が恩恵を受けています。

【教育】 スクール・イン・ア・ボックスを 500 キット配布し、生徒 4000 人、教師 1000 人がその恩恵を受けました。

【子どもの保護】 地雷、不発弾に関する危険回避教育を、チラシ 75 万部の配布やメディアを通じて実施しました。



<引き続き暖かい支援を>

イラクでの治安状況が一層悪化したため、イラクの国連職員は一時的に国外へ出て待機をしています(9 月末現在)。ユニセフイラク事務所も国際スタッフは国外に待避していますが、子どもたちへの支援活動は国内スタッフを中心に継続しています。まだまだイラクの子どもたちの状況は深刻です。今後とも息の長い支援活動をお願いします。(茂垣)

世界の子ども達は今



今日はアフリカのニジェールのお話。子ども達が健やかに育つためにおこなわれているユニセフの取り組みがあるのよ！



<ヤギ交換プログラム>

ヤギを育てることで、極貧の生活から抜け出す方法です。受け取った3頭のヤギを育て、一年目の終わりに生まれてきたヤギのうち3頭を別の女性に贈るというものです。

マラディ地方のディジェ・アブドゥ夫妻には、10人の子ども達がいいます。一生懸命働きますが、いつも生活に追われ貧しさから抜け出せない状態でした。ヤギ交換プログラムを通して、ユニセフからヤギ3頭を最初に受け取ったのが1996年。すでに76頭のヤギを育てています。



お母さんは、最近20頭のヤギを売りました。娘の結婚式のためです。まだ中学生ですが、すでに一番上の息子と3人の娘達も結婚しています。娘たちに、お母さんは必ず大切な結婚プレゼントを贈ることにしています。そう、娘たちが同じようにヤギを育てられるように、数頭のヤギを贈るのです。



(文：松本、絵：蛭沢)



この国 どんな国？ 東ティモールの巻



みなさん 東ティモールという国をご存じですか。昨年国家としての独立を果たした出来立てのホヤホヤの国です。



16世紀以前	リウライ(王)が割拠する王国乱立。
16世紀前半	ポルトガル、東ティモールに白檀を求めて来航、ティモール島を征服。
1859年	リスボン条約で、ポルトガルとオランダの間でそれぞれ東西ティモールを分割。
1942年	日本軍、ティモール全島を占領
1976年	インドネシア政府、東ティモールを第27番目の州として併合。
1999年	6月、国連東ティモール・ミッション(UNAMET)設立の国連安保理決議を採択。 8月30日、直接投票実施 9月4日の結果発表直後から、反対する勢力の破壊・暴力行為が急増し現地情勢は急激に悪化。
2000年	7月、東ティモール暫定政府(ETTA)発足
2001年	8月30日 憲法制定議会選挙実施
2002年	5月20日 東ティモール民主共和国独立

<東ティモールの今>

- 人口 約80万人
- 言語 公用語 ポルトガル語・テトゥン語 共通語 テトゥン語・インドネシア語
- 宗教 97%はカトリック信者 いたる所に教会がある。
社会生活の中で教会の組織力、影響力は強い。
- 医療 機能している病院は2つだけ。機能している病院が2つしかないため15%の出産に必ずある危険を回避できない。村に一人助産婦を置こうとしている。
- 産業 主として農業。流通の仕組みがなく、まだ自給自足の状態。
- 国民 独立できたことを誇りにし、新しい国を造る意気込みは強い。
- 選挙権 17歳。
- 地雷 ないので安心して開発していける。
- NGO 短期的だが、300ぐらいにも及ぶ。



主な支援国 日本、オーストラリア、ポルトガル



ぽむぽむ広場

ぽむぽむ通信の通算22号をお届けします。従来は、日本ユニセフ協会から印刷物として発行していましたが、今回から日本生協連発行の全国組合員活動情報に掲載します。また日本生協連ホームページにも掲載します(こちらはカラーです)。今後ともよろしく願いします。

全国の生協でおこなわれているユニセフ協力活動の交流も積極的に進めていきたいと思ひます。みなさんの生協の活動事例などをぜひ情報としてお寄せください。

次回の発行は、2月15日の予定です。お楽しみに！

ユニセフ*コープネットワーク ぽむ・ぽむ通信

No.22 2003年10月15日発行

編集 グループ ぽむ・ぽむ

スタッフ・編集/尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・林田・皆地・茂垣

イラスト/蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11 階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>